

平成21年度 岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
 兼東海・全国高等学校総合体育大会岐阜県予選会
 最終日：平成21年5月31日(日)
 会場：関わかくさプラザ

男子の部

<審判>

決勝リーグ 美濃加茂 84 $\left[\begin{array}{l} 16 - 15 \\ 22 - 13 \\ 19 - 5 \\ 27 - 13 \end{array} \right] 46$ 岐阜総合 室谷伸治・三浦 潔
 (2勝) (2敗)

美濃加茂は1-2-1-1ゾーンプレスからのハーフコートマンツーマンディフェンス、岐阜総合はハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。美濃加茂は速いパッシングからノーマークを作り、中村、小川のシュートで加点する。対する岐阜総合も相手のゾーンプレスをうまくかわして、山川がレイアップや合わせのプレーで、浅野がジャンプシュートで得点する。第1ピリオドは16-15と美濃加茂が1点リードする。

第2ピリオド開始直後、岐阜総合は後藤、松井のシュートで逆転するが、美濃加茂は打江の3点シュートですぐに同点とする。その後も美濃加茂は小園井、中村のジャンプシュートなどで得点し、じわじわと差を広げる。前半を終わって38-28と、美濃加茂が10点リードを奪った。

第3ピリオド、美濃加茂は激しいオールコートゾーンプレスで相手のミスを誘い、打江の3点シュートや、高橋のゴール下シュートで得点していく。岐阜総合はゾーンが機能せず、オフェンスもリズムに乗れずに、このピリオドで5点しかあげることができなかった。

第4ピリオド、美濃加茂はベンチメンバーを出場させるが、その選手たちもディフェンスを頑張り、滝沢のジャンプシュートや斉藤のゴール下シュートで加点していく。結局84-46と大量リードを奪った美濃加茂が決勝リーグ2勝目をあげて、インターハイ出場にあと1勝とした。(吉福司)

決勝リーグ 中津川工 85 $\left[\begin{array}{l} 18 - 13 \\ 23 - 9 \\ 22 - 12 \\ 22 - 22 \end{array} \right] 56$ 岐阜農林 菅野 浩・角平和優
 (2勝) (2敗)

中津川工、オールコートゾーンプレス、岐阜農林、ハーフコートマンツーマンでスタート。中津川工は、速い展開から田口、原が次々にドライブで得点していく。対する岐阜農林は、小林のゲームコントロールから、曾我の3点シュートなどで応戦する。

第2ピリオド、中津川工はゾーンとマンツーマンを次々に切りかえ、積極的にリバウンドに飛び込み、瀧澤のリバウンドシュート、森のカットインなどでリズムよく加点していく。守っても相手に思うようにシュートを打たせず、このピリオドで一気にリードを奪い、41-22で前半を折り返した。

後半に入っても中津川工はタイトなディフェンスから、安定したミドルショット、カットインで次々と得点していく。岐阜農林はミドルショットがなかなか決まらず、差を縮めることができない。

結局、中津川工が最後まで走りきって、85-56で勝利を収めて決勝リーグの2勝目をあげた。岐阜農林もオールコートゾーンプレスで最後まで必死にボールを追いかけたが、及ばなかった。(林義貴)

決勝リーグ 中津川工 82 $\left[\begin{array}{l} 23 - 22 \\ 10 - 18 \\ 23 - 22 \\ 26 - 19 \end{array} \right] 81$ 美濃加茂 増田博徳・大江裕之
 (3勝) (2勝1敗)

決勝リーグ2勝同士の対戦となった最終ゲーム、中津川工はハーフマンツーマンと2-2-1プレスからの2-3ゾーンを敷く。美濃加茂は、中津川工の田口、谷本を抑えるためにトライアングルツーを敷く。中津川工は原のカットインや田口のリバウンドシュートで得点する。美濃加茂も打江、小川の3点シュートで得点し、互角の展開となった。

第2ピリオド、中津川工はプレスを仕掛けるが、美濃加茂は小園井、大野のシュートで得点していく。前半は美濃加茂が7点のリード。

第3ピリオド、中津川工はディフェンスのプレッシャーを強めて、原、田口の速攻で得点し、一時は同点に追いつく。しかし、美濃加茂は高橋のポストプレーや、小園井の3点シュートで対抗し、62-56と6点のリードとなった。

第4ピリオド、中津川工は森の速攻と、田口の1対1で得点するが、美濃加茂も中村の連続3点シュートなどでリードを保つ。中津川工は田口の1対1、今井の3点シュートと速攻などで必死に追い上げ、8分には78-78の同点に追いついた。残り1分を切り、美濃加茂は打江の3点シュートで再度リードするが、中津川工は谷本がフリースローを2本とも決めて1点差まで追い上げる。パスを回して逃げ切りを図る美濃加茂であったが、中津川工の必死のディフェンスが相手のパスミスを誘う。残り4.7秒、中津川工のスローインから原がゴール下にドライブして、ノーマークの味方にパス。加藤がブザーとともにレイアップシュートを決め、中津川工が劇的な逆転勝利を収めて、インターハイ初出場を勝ち取った。中津川工は田口が最後まで1対1で攻め続け、確実にシュートを決めたことが大きな勝因であった。(岩永英夫)

決勝リーグ	岐阜農林 (1勝2敗)	61	$\begin{bmatrix} 15 & - & 16 \\ 12 & - & 19 \\ 19 & - & 11 \\ 15 & - & 11 \end{bmatrix}$	57	岐阜総合 (3敗)	松野瑞穂・棚橋英一
-------	----------------	----	--	----	--------------	-----------

東海大会の出場権をかけ、両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。立ち上がり、岐阜農林が小林のシュート、曾我の3点シュートで先行すれば、岐阜総合が後藤、小西が速いテンポでシュートを決める。しかし双方ともディフェンスで頑張りを見せロースコアの展開となる。第1ピリオドは岐阜総合が16-15と1点リードする。

第2ピリオドに入ると、岐阜総合は松井を中心にしてプレーを作り、ファウルで得たフリースローを確実に決めていく。岐阜農林も小林の1対1を起点に内外角の合わせのプレーからシュートを決める。前半終わって岐阜総合が35-27とリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、岐阜農林は小林、曾我がルーズボールなどに頑張りを見せて流れをつかみ、曾我、小島、小林が3点シュートなどを決める。岐阜総合もディフェンスリバウンドを制して落ち着いたプレーで得点をあげ、第3ピリオドが終わって46-46の同点となる。

第4ピリオド、岐阜農林小林がシュートを決めれば、岐阜総合松井が入れかえし、互いに譲らない。しかし、岐阜農林は攻守の動きに衰えを見せず、ファウルで得たフリースローを小島、曾我が着実に決め、激しい熱戦に終止符を打ち、岐阜農林が61-57で競り勝って第3位となり、東海大会出場を決めた。岐阜総合も松井、小西を中心に最後まで粘りを見せたが、最後に力尽きた。(林 香奈江)

女子の部

< 審判 >

決勝リーグ	岐阜女子 (2勝)	94	$\begin{bmatrix} 16 & - & 11 \\ 28 & - & 14 \\ 26 & - & 16 \\ 24 & - & 5 \end{bmatrix}$	46	岐阜総合 (2敗)	菅野恵美子・名越龍男
-------	--------------	----	---	----	--------------	------------

岐阜女子は激しいマンツーマンディフェンスからボールを奪うと速攻に出て、安江のゴール下シュートで得点をあげると、岐阜総合はドライブをしかけてはアウトサイドから野原あ、尾関、島田が3点シュートを決めて喰い下がる。両チームともターンオーバーが多く、第1ピリオドは岐阜女子が16-11とリードする。

第2ピリオドに入ると岐阜女子は厳しいディフェンスからスティールでボールを奪い、中村早、尾崎、安江が次々にシュートを決め、着実に点差を広げていく。岐阜総合は相手のディフェンスを攻めめぐみ得点が伸びず、田中、尾関が3点シュートを決めるも苦しい展開となる。前半は岐阜女子が44-25とリードして折り返す。

第3ピリオド、岐阜女子はオールコートマンツーマンでディフェンスの手を緩めず、中村早、中村優、東方らの確実なシュートで相手を突き放す。岐阜総合も下里のジャンプシュート、野倉のゴール下シュート、猪野間の3点シュートと必死に追い上げを図るが、相手ディフェンスを崩せない。

第4ピリオドは両チームともベンチメンバーを多用し、総力戦となるが、ディフェンスで勝る岐阜女子が94-46で勝ち、県総体の優勝へとまた一歩近づいた。(廣瀬 卓哉)

決勝リーグ	高山西 (2勝)	64	$\begin{bmatrix} 19 - 13 \\ 20 - 10 \\ 16 - 11 \\ 9 - 20 \end{bmatrix}$	54	県岐阜商 (2敗)	小泉純子・長屋 貴
-------	-------------	----	---	----	--------------	-----------

両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。高山西は 垣内のゴール下シュート、朝熊の3点シュートなどでリズムをつかむ。県岐阜商は 池田のジャンプシュートや、松尾の3点シュートで応戦し、オフェンスリバウンドを積極的に奪うが、シュートが思うように決まらない。第1ピリオドは高山西が19-13とリードする。

第2ピリオドに入ると、高山西は 張、趙が攻守ともにリバウンドで活躍し、そこから 浅生のドライブ、室谷のミドルシュートなどで次第に点差を開けていく。県岐阜商もゾーンディフェンスに変えるなど工夫をするが、なかなかシュートが決まらない。前半は高山西が39-23とリードして折り返す。

第3ピリオド、高山西は 張のリバウンドを軸に、筒井が3本連続シュートを決めるなどリードを保つ。県岐阜商は早い展開に持ち込み、池田、吉野がシュートを決めるが、ターンオーバーが多く、点差を詰めるには至らない。

第4ピリオド、高山西は相手の追い上げに苦しむものの、正確なパスワークと確実なミドルシュートで逃げ切り、64-54で勝利し、決勝リーグ2勝目を手にした。県岐阜商も、松尾の3点シュートで点差を縮めたが及ばなかった。(尾関清光)

決勝リーグ	岐阜女子 (3勝)	88	$\begin{bmatrix} 15 - 12 \\ 24 - 5 \\ 26 - 9 \\ 23 - 13 \end{bmatrix}$	39	高山西 (2勝1敗)	相宮俊郎・廣瀬卓哉
-------	--------------	----	--	----	---------------	-----------

両チームともにマンツーマンディフェンスでスタートする。岐阜女子は 中村早、高山西は 井川の3点シュートで得点を重ね、一進一退の攻防が続く。岐阜女子は 安江のポストプレーを中心に攻めるも攻めきれず、このピリオドは互角の展開となった。

第2ピリオド、高山西は 原、井川が得点し、好スタートを切る。しかし岐阜女子は 安江のバックシュート、中村早、中村優の速攻で連続得点をあげる。ペースをつかんだ岐阜女子は着実にリードを広げ、39-17として前半を終了した。

第3ピリオド、高山西はゾーンディフェンスで流れを変えようとするが、岐阜女子は 松原、神山がアウトサイドから難なく得点する。岐阜女子のリードはさらに広がり、65-26で第3ピリオドを終える。

第4ピリオド、ベンチメンバーを全員出場させる余裕を見せた岐阜女子が、攻撃の手を緩めずさらにリードを広げた。結局、速さ、シュートの正確さに勝る岐阜女子が88-39で圧勝して、決勝リーグ3勝目をあげ、全国大会出場権をつかんだ。高山西も 垣内のゴール下シュート、岩畑の3点シュートで得点したが、及ばなかった。(杉山博宣)

決勝リーグ	岐阜総合 (1勝2敗)	55	$\begin{bmatrix} 14 - 13 \\ 7 - 14 \\ 15 - 8 \\ 19 - 12 \end{bmatrix}$	47	県岐阜商 (3敗)	小牧秀則・津田健介
-------	----------------	----	--	----	--------------	-----------

東海大会の切符をかけた3位決定戦。両チームともにハーフマンツーマンでスタートする。岐阜総合が 下里のドライブ、リバウンドシュート、田中の3点シュートで先行すると、県岐阜商は 安田、山田の3点シュートで対抗する。両チームとも激しいディフェンスで争い合い、一進一退の攻防を繰り広げる。

第2ピリオドに入ると、県岐阜商は 安田の3点シュートを皮切りにインサイド、アウトサイドのリズムが合い、松尾、吉野がシュートを決める。岐阜総合はディフェンスをオールコート2-2-1に変えるなど反撃を試みるが、シュートが決まらず苦しい展開となる。前半は県岐阜商が27-21とリードする。

第3ピリオド、岐阜総合は 野倉のインサイドシュートや、野原あのドライブが決まり、勢いに乗って一気に同点に追いつく。県岐阜商もリバウンドで粘りを見せ、一步も引き下がらない。岐阜総合が36-35とわずか1点のリードで最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、オフェンスのリズムのよくなった岐阜総合は、尾関、島田、下里の3点シュートが連続して決まり、ついに突き放す。その後もディフェンス、リバウンドに頑張りを見せ、最後は気迫に勝る岐阜総合が55-47で勝利して東海大会の出場権を獲得した。県岐阜商も最後までオールコートマンツーマンで必死に守ったが、わずかに及ばなかった。(林 紗規子)